

歴史民俗資料館だより

令和7年10月号 神無月 仙台市歴史民俗資料館



〒983-0842 仙台市宮城野区五輪1-3-7 TEL 022-295-3956 FAX 022-257-6401

「れきみん秋祭り2025」を開催します！！ 第1部 10月25日(土)



仙台北下とその周辺の民俗芸能

■ 城下の祭礼と神楽

仙台北下の神社のほとんどには神楽殿が設けられていて、仙台の祭りといえば、必ずといっていいほど神楽が舞われていた、とよく古老たちから聞かされる。

これらの神社に直接付属した神楽を持たないところでは他の神楽を招いて舞ってもらっていたから、仙台では「祭り即神楽」のイメージが強かったようだ。城下にあった神楽以外の芸能は、盆に踊られる八幡町と宮町の鹿踊剣舞、正月の門を巡る小田植などや獅子舞ぐらいたったろうし、芝居小屋の興業物以外はめばしい芸能はなかったようだから、仙台人には幼児期から「お神楽」が最も馴染みの深い芸能であった。

■ 城下周辺の芸能組

城下の神楽に比べて城下の周辺、特に太白区秋保町、泉区、青葉区の旧宮城町地域には、正月田植の踊組が集落ごとにあったといってもよいほど盛行していた。鹿踊剣舞は盆の行事として行われていた。

農閑期には地芝居もあり、神楽も多くはないが祭りに舞われ、また座敷踊りなどはどこでもみられたから、城下周辺はいわば芸所といった感がある。

■ 民俗芸能の消長

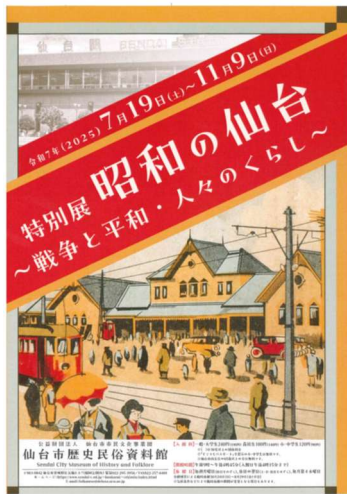
たいていの民俗芸能は長い伝承の過程において中断と復興を繰り返してきた。伝統の様式や芸能を意識的に変えようとしなくても、衣装や演舞の態様などに崩れがでたり、指導者の解釈によって多少の変容が生ずるのを常とするが、仙台の民俗芸能のほとんどは旧態を保持し、伝承の確かさをみせており芸質は高い。

またこれまで明治維新と第2次世界大戦は民俗芸能にとっても最も大きな存亡の危機であったが、旧市域を囲む周辺地域は大消費地を抱えていたためか経済的に余裕があり、比較的豊かな伝承環境に恵まれていたといえよう。

仙台市の民俗芸能は思いのほか質量とも格段に優れており、東北の各地と比べても引けを取らない。国や県の無形民俗文化財指定数をみてもおのずと知れることである。

(参考文献: 仙台市史 特別編6「民俗」)

特別展「昭和の仙台」～戦争と平和・人々の暮らし～



展示期間：7月19日（土）～11月9日（日）

昭和元年（1926）から100年、第2次世界大戦の終戦から80年という年にあたり、昭和という一時代の中で変化した仙台の街の風景と人々のくらしの道具の変化についてご紹介しています。

■展示解説

日時 令和7年10月11日（土）
午前の部 11：00～
午後の部 14：00～

会場 仙台市歴史民俗資料館

申込み 事前申込不要（入館料がかかります）

これからの主な事業（詳しくはホームページで御確認ください）

- 10月13日（月・祝） 体験学習・たんけん資料館（れきみんバックヤードツアー）
- 10月18日（土） 第18回ホームムービーの日「なつかし仙台8ミリフィルム上映会」
- 10月25日（土） 「れきみん秋祭り2025」第1部
- 11月3日（月・祝） 「れきみん秋祭り2025」第2部

出前授業について

貸切りバス代の高騰など様々な理由により当館に来ることができない学校があると聞いています。当館では依頼のあった学校に出向いて学芸員等による出前授業を実施しておりますので、出前授業を希望される場合は、ぜひ御相談ください。

昔の道具の実物を持参して授業をすることにより、子供たちはインターネットや図書資料による学習では分かりにくい、道具の大きさ、質感等を実感を持って理解することができるものと思います。

また、学校だけではなく、社会学級や市民センターの老壮大学等での出前授業（講師派遣）もできますので、ぜひ、御相談ください。